

学校法人東放学園  
東放学園専門学校 殿

## 2023 年度 学校関係者評価報告書

東放学園専門学校  
学校関係者評価委員会

### 1. 学校関係者評価委員

【学校運営に関する有識者】

岸田 真 桜美林大学 芸術文化学群 教授（委員長）

【就職先企業及び業界関係者】

小川 尚人 一般社団法人 日本ポストプロダクション協会（映像・音響系）

本多 晋 株式会社 レック 撮影部（映像系）

【高等学校教職員】

田口 裕基 日本大学鶴ヶ丘高等学校 教諭

【保護者】

山下 安奈 放送芸術科 1 年生保護者

### 2. 事務局・東放学園専門学校

堀内 和人 校長

笹原 恭 教務教育部 部長

木戸 司 学務管理部 部長

浜野 龍也 学務管理部 業務主任

### 3. 学校関係者評価委員会の開催情報

2023 年 8 月 26 日（土）13:00～15:00 東放学園専門学校にて会議実施

### 4. 学校関係者評価結果

※別紙のとおり

以上

## ※別紙

### 4. 学校関係者評価結果

#### 【評定内容】

- 4 適切に対応している。課題の発見に積極的で、今後更に向上させるための意欲がある。
- 3 ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 全く対応しておらず不適切である。学校の方針から見直す必要がある。

#### I. 重点目標について

##### 重点目標 1 カリキュラムの検討(2021 年度～2023 年度)

コ メ ン ト	評定
<p>長年にわたる蓄積があり、実績があることは認められる。昨年も所感で書いたが、漢字が多用される「学科名」「科目名」は再考を要するものと感じられる。なんでもカタカナにすればいいというものでもないが、現代の学生に響くようなネーミングが望まれる。</p> <p>昨今の「チャットGPT」「AI生成」など、新しいテクノロジーの台頭が目まぐるしい、専門学校における教育の基本とは何かを再考し、新しいテクノロジーにも対応できるカリキュラムを視野に入れる必要がある。但し、必ず落とし穴が存在する為、懸念すべき事の教育も必要、課題としているリカレント教育にも、着目している事は、とても良い。また、難しいことかもしれないが、話術、会話の修練する取組みの対応を検討頂きたい。</p> <p>従来のベーシックな教育と次世代を見据えた多彩なカリキュラムのバランスがよく、双方において効果的な授業が行われているように感じる。学生達の実習に対する熱意は変わらず、対面教育の意義を改めて実感した。彼らが“教わったこと”以上に“感じたこと”を記憶に留め、引き続き学びを高めることを期待する。また実習では多様なジャンルを学んで、「携わりたいジャンル」を増やしてあげられるよう、工夫してほしい。</p> <p>課題に対しては十分努力が見られます。コロナ禍にありながら、前向きにできることを追求する姿勢に好感が持てました。</p> <p>コロナ禍が続き、オンライン講習の取り組み、実習や現場研修の対応などカリキュラム編成に苦労もあった中、具体的な目標に向けて計画的に練られていると思う。また、「関連業界の企業などが委員として参画する教育課程編成委員会を設置し、カリキュラム編成に反映している。」とあり、引き続き企業と生徒の声を聴き、求める人材の育成に力を入れていただきたい。</p>	<h1>4</h1>

重点目標 2 募集力強化(継続)

コ メ ン ト	評 定
<p>地道な高校訪問や体験入学も大事だが、現代の高校生はSNS利用が圧倒的に多い。すでに利用されているようだが、問題はそのコンテンツで、業界に関心がある高校生にグッとくるものをアップすることが必要である。近年大学が専門学校化してきている。今後更に大学との差別化が必要とされてくる。</p> <p>夏季スペシャルイベントや TikTok の活用など、広報活動に新しさを取り組んでいる。とても良いと思う。専門学校に入るメリットは何か？大学では学べない事は何か？専門性の追求をアピールする余地があるかと思いません。</p> <p>東京で就職を希望する地方学生に、よりフォーカスをしていくべきと考える。地方の専門学校卒業後に上京、就職は生活環境の大きな変化があり、受け入れる企業側が抱えるリスクも増えている。東京で働く事を決めているならば、東京の専門学校が望ましいであろう。その為には寮の充実や単身生活の手助けなど、親の立場からも安心して送り出せるような環境作りがあっても良いかと思う。</p> <p>ドロップアウト率は目標を達成しており、これはひとえに教職員の日頃の努力の結果と言える。引き続き、継続してためにはより詳細な原因を追求するため、例えば学年ごとの退学理由の分析をすることなど、が必要かと思われる。</p> <p>高校生がメインとなると思うが、在籍している学校により進路指導時の専門学校に対する意識に差がある。高校の教員、子供、保護者、各々の業界への知識や理解が必要だと思う。ホームページは必ず閲覧するので最新情報の更新、ページの見やすさなど評価できる。気軽に来校できる距離にいない子達の為に、SNS 媒体利用やオンラインイベントも頑張っていたきたい。</p>	<p>3</p>

重点目標 3 進路決定率の向上・大手企業対策強化

コ メ ン ト	評 定
<p>入学時から進路への動機づけを行うことは大切である。大手企業を志向することが無意味とはいわないが、近年は大手企業という存在自体がめまぐるしく変化している。貴校の場合、大手というより、むしろニッチなところを目指した方が効果的なのではないか？あるいは就職ではなく、起業する方法などを教える。</p> <p>企業との関係強化は、継続して行って欲しいが、採用をする側の判断として、面接の重要性を理解して欲しい。私自身の経験、業界団体の一員として耳にする事では、男性と女性では、圧倒的に女性が好印象となる傾向、その要因は話術、会話、回答術による。進路決定率を上げる為には、学校として、就職先企業との対応を深掘りすべきではないか。</p> <p>彼らの就職したい、働きたい気持ちは充分伝わるのだが、具体的にどうすれば良いかわからない、なかなか一歩目が出ない、といったケースを多く見る。選考において体当たりではなく用意をして臨む、数を打つではなく質を大事にする。出口の部分、就職に向けての指導により力を入れるべきと考える。</p> <p>進路決定率が2021年度に比べて飛躍的に向上したのは学生一人一人の進路目標が早期に明確化されたことによるのか、コロナ禍が明けたことにより、採用数の増加によるものなのか、分析していく必要がある。</p>	<p>3</p>

2022年度は目標を達成しており大変評価できる。社内、現場等で即戦力とまでは言えなくても、資格取得者や映像や音響ソフトを扱える人材になる等、就職に繋がる取組みを継続していただきたい。生徒1人1人の性格や能力の把握は大変だが、引き続き支援をお願いしたい。

## II. 評価項目別取組状況について

### 基準1 教育理念・目的・育成人材像

コメント	評定
<p>「エンターテインメント業界の人材育成」という創設以来の教育理念を持ち続け、実践していることは多いに評価できる。エンターテインメント業界は、常に時代と共にあるので、時代を読む目、先読みする力が試されるだろう。</p> <p>しっかりとした理念がベースにあり、ゆるぎない運営をされていると思う。</p> <p>理念体系の三本柱に基づいた運営は頼もしい。また、5カ年という中期的に期間を設けて改革を行なっていくことは効果的であると考え。過去に留まることなく時代を見据え、邁進を図る姿勢に今後も期待する。</p> <p>基本理念・目的・育成人材像がホームページ等で明確に示されているため、それを理解した生徒が入学してくるし、それはミスマッチ入学の減少、DO率の低下にもリンクしていると思われる。</p> <p>明確な教育理念があり、浸透度を高めるためホームページでの公表や学生ガイドへの掲載等、評価できます。達成に向け様々な教育活動に取り組んでいるので、今後も関連業界などの協力を得て人材育成をしてほしい。</p>	4

### 基準2 学校運営

コメント	評定
<p>コミュニティーサイトが有効に活用できているのであれば、何の問題もない。教育機関たる学校は営利を目的とするものではないが、公的補助のない私学にあって、運営面のことも考慮しなければならないだろう。各職員の意識が重要である。</p> <p>事業計画に則った運営をされていると判断します。コロナが5類になった今、今までの日常とは違う形の戻り方になると思われる。運営においても、トレンドに対するアンテナを立て、臨機応変な対応が出来ると良い。</p> <p>コロナ禍で先の見えなかった時期においての5カ年事業計画は、さぞ柔軟に対応されたであろうと想像できる。終盤に向かって引き続き取り組んでほしい。</p> <p>主な財務比率比較表の中で気になったのは2018年～2021年までは36円前後で推移していた経常費に占める人件費割合が2022年は40円代に上昇した点である。今後の採用計画などと併せて注視すべき点だと思われる。</p>	4

5ヵ年事業計画に基づき、様々な変化への対応を柔軟にされていると思う。教職員専用サイトや意思決定システムも評価できます。学生支援のための各種システムだが、セキュリティ管理は適切に行ってほしい。	
---	--

### 基準3 教育活動

コメント	評価
<p>教育課程編成委員会を設置していることは興味深い。この委員会で、どのようなことが議論され、決定されていくのか？学生や社会のニーズに適合したものであるのかが問題である。可能であれば、内部職員だけでなく、外部の専門家も委員会に加わってもらおうとよいだろう。</p> <p>毎年の見直し改訂、在校生へのアンケートなど良き活動と思えます。実務経験者講師など、専門性を持った方の指導、教育は受講生達にとっては大きな糧となる活動と思う。資格の取得も非常に良いが、資格を取る事を目標にされると困るので、その知識を生かす指導が望まれると思う。</p> <p>学生目線に立ち教育を行う講師と、社会を見据えた支援をするキャリアサポートセンターが非常に効果的である。分業でありながら密に情報を共有し連携をとる体制は、他校に比べ秀でる印象を持つ。</p> <p>サッカーの女子ワールドカップの放映について、一時期地上波では放送されないような報道もあった。教えている側の世代の常識が通用しなくなっており、常に情報をアップデートしていけるような研修の機会の充実を図り、多種多様なニーズに対応していくことが求められている。教育活動が学校経営の根幹を担っていることを常に教職員全体の共通認識として持つ必要がある。</p> <p>企業と連携し、教育課程編成の見直しや改定、生徒たちへのアンケート等、授業改善のための対応は良いと思います。エンタメ業界は資格や免許の取得が必須ではないとあるが、資格取得が目標となり学習意欲を高めることに繋がるので引き続き推奨していただきたい。</p>	4

### 基準4 学修成果

コメント	評価
<p>目標を設定した就職率の向上、資格・免許の取得率向上に向けて、努力していることがうかがわれる。エンターテインメント業界に限ったことではないが、人脈は大切なので、TOHO 会も充実したものにしてほしい。</p> <p>進路決定率、就職率を拝見すると、昨年に増して2022年度は率が向上しています。貴校の努力の現れですね。資格取得は就職に役立つだけでなく、終生自分の武器となるものですから、促進して頂ければと思います。</p> <p>各分野における資格や検定。実社会において活用されるか否かはさておき、より多くの刀を携えて社会へ飛び立ちたいという意識を評価したい。彼らの履歴書には細かく全てが記載されており、しっかりとした学内教育を伺うことができる。</p> <p>これは高校の現場でも言えることだが、何をもって学修成果とみなすかに依る。たとえば一部上場企業への就職数とするのか、特定の資格取得率とするのか、定点観測できる基準を決めることにより、客観的なこの項目についての比較ができることに繋がるのではないかと。</p>	4

進路決定率、就職率は上昇しており、未内定者への個別連絡や進路面談等対策強化は評価できます。卒業生が在籍している企業への訪問等、インターンシップ先で自分の目指す業界を実際に体験できるよう企業への協力をお願いしたい。

#### 基準 5 学生支援

コ メ ン ト	評 定
<p>hyper-QU はどれぐらい有効利用されているのだろうか？メンタル面に問題をかかえた若者が少なくないなか、クラスアドバイザー、留学生担当など、様々な努力をされていることがうかがわれる。</p> <p>貴校の取り組みはしっかりとした体制になっていると思う。少し、主旨から逸れるが、昨今の「転職系の TVCM」の多さが、現在の若者の考え方を象徴しているように感じる。就職をしても直ぐに辞めてしまう。離職率の高さが放送業界、映像制作業界では目立つようになっている。教育活動に繋がる事だが、貴校が行っているカウンセリングを現役の方々や企業側の方をお願いするなどの取り組みがあると、中途退学率の軽減にもなるかと思う。</p> <p>カウンセリング等のメンタリティにおける支援活動は今や必須である。窓口を開いて待つだけではなく、積極的に働きかける姿勢が大切と考える。奨学金に関しては、本当に必要な学生を見極めるべき。安易に制度を利用し、社会へ出てからの返済に苦勞している学生は少なくない。</p> <p>客観的に見て貴学は学生への面倒見が非常によい学校だと思う。昨今の学生はネットから情報収集する能力は長けている反面、対面でのコミュニケーション能力に欠ける傾向がある。したがって貴学のスタンスは今の学生にマッチしていると言える。</p> <p>個別相談、専任カウンセラー、キャリアサポートセンター等、様々な手厚い支援があり評価できる。経済支援は、独自の奨学金制度もあり御校の支援体制は素晴らしいと思います。DO 率との関係性もありますので経済支援の一層の充実を検討していただきたい。また、自己主張やアウトプットが苦手な生徒達への対応や些細なことへの対処等今後も気軽に相談できる環境を整えていただきたい。</p>	<h1>3</h1>

基準 6 教育環境

コ メ ン ト	評 定
<p>機材・機器の進化は日進月歩なので長期ではなく、短期で変更やメンテナンスを考えていくことが望ましい。予算にも限りがあるだろうが、レンタルにも限界があるだろう。悩ましいところである。通常授業に関しては問題ないと感じられる。</p> <p>事業計画に則り、限られた予算で対応をする以上、多くを求める事は難しいが、昨年、話にも出た、防犯に関してはしっかりと対応を取って頂きたい。</p> <p>インターンシップは専門学生だけでなく業界全体にとって重要な機会である。実際の現場で感じる空気は、彼らの将来の選択に大きく影響を与えることだろう。ただこの制度を知っている企業が少ないことは課題だ。アルバイトや一時的な人足とは異なることを学校、企業のお互いが知っておくべきである。機材設備の更新をどのタイミングで行うかも大事である。</p> <p>素人目にも貴学の教育施設の維持・管理・アップデートには相当な費用がかかるかと思われます。そうは言っても専門学校という特性上、企業側からは即戦力を求められているわけで、そのために教育施設に必要な投資は続けていく必要がある。</p> <p>施設・設備は充分に対応できていると思う。関連機器は高額だと思うが、破損等に備えて保険に加入するなど、支障が出ないよう対策もされており評価できる。学生が利用できるオンラインブースの導入も良いと思う。学外実習や学校行事は、自主参加型ですと個人により参加の有無による経験の差が出るので考査していただきたい。</p>	<p>3</p>

基準 7 学生の募集と受入れ

コ メ ン ト	評 定
<p>多くの若者にとってエンターテインメント業界は憧れの対象だが、保護者にとっては必ずしもそうではない。保護者を強く納得させることのできる材料があれば、学生募集に有効なものとなるであろう。少子化という問題はあり、今後は広く海外に目を向けるべきだろう。特にアニメ、声優、その周辺だろうか？</p> <p>若い方々の気持ちをつかむ事、他校や、大学との違いを明確にして、貴校の良きところを今後もアピール頂ければと思う。</p> <p>魅力的なホームページは将来をイメージしやすく、放送、エンターテインメント業界で活躍という響きも彼らをワクワクさせる。体験入学やオープンキャンパスで実際の機材に触れる機会は忘れられない体験となることであろう。サポートを学園生が中心で行なっていることも好感が持てる。</p> <p>大学とは棲み分けはできていると思われるので、近年増えてきている専門職大学との棲み分けをどうするか、そこに今後の学生募集の鍵が隠されているのではと考える。</p> <p>体験入学、説明会、個別相談、オンライン面接等、効果的な募集活動を行っており評価できる。ホームページは入学手続きの方法や学納金などもわかりやすい。興味のある子供たちに目されるために、高等学校や保護</p>	<p>3</p>

者への情報提供を積極的に行っていただきたい。紙ベースのパンフレットは、様々な家庭環境を考慮してある程度残すべきだと思う。	
--	--

#### 基準 8 財務

コ メ ン ト	評 定
<p>5カ年事業計画と単年度事業計画に基づく予算・収支計画が策定されていることは有益である。少子化に向けての学生確保が望まれる。</p> <p>問題を感じることはないが、少子化が進む中、学生の確保に苦労や悩みが尽きないと思う。物価の高騰(電気代、資材費など)もあり、削減できるポイントをしっかり対応頂ければと思う。</p> <p>報告書を拝読する上で問題点は感じられない。財務状況のバランスがとれた運営は頼もしい。</p> <p>財務については素人なので表面的なことだけの指摘に留めたい。それは基本金組入前当年度収支差額を事業活動収入で割った数字が2018年度から2021年度まではプラスだったのが2022年度はマイナスになっている点である。</p> <p>財務情報をホームページで公開し、収支バランスもとれており評価できる。収支計画や管理も適切で、監査もしっかりと実施しているので今後も引き続き健全な財務管理を継続してほしい。</p>	4

#### 基準 9 法令等の遵守

コ メ ン ト	評 定
<p>セクハラ、パワハラは、どの職場でも問題だが、特に生徒に対する教員のそれは、通常より重大なものと扱われる。人間同士のことなので、感情問題は常に生じることであるが、自覚をもって行動してほしい。東放コミュニティーサイトも有効に使用することが望まれる。</p> <p>特に問題はないが、法令という事で、重点目標1にも記述したが、チャットGPTやAIテクノロジーに対して、著作の問題が、今後大きくなってくると思う。教員の方々を含め、理解を深める講義などを検討されたいだろうか。</p> <p>多様化、複雑化するハラスメントの防止は必須であるが、大きなコミュニティにおいての対策は大変であろう。防止マニュアルの整備やスクールコンプライアンスの確立等、継続的な取り組みを応援する。</p> <p>コンプライアンスに関する研修が高校でも定期的に行われているが、かつて内容は形式的なものであったが、近年はより現実的になってきており、それだけ教育界のコンプライアンス遵守というものに世間の目が厳しくなっていることに依るところが大きいと思う。教職員のコンプライアンスについての目線合わせが重要だと考える。</p> <p>情報セキュリティに関して基本方針を定め、教職員や学生に対し啓発活動の実施等行っており評価できる。ハラスメント防止の対策は、教職員みなさんの働きやすさにも繋がり、生徒や御校の評価にも繋がりますのでしっかりと継続して体制を整えていただきたい。自己評価、学校関係者評価の体制もしっかり構築されており、評価の公開もされているので継続していただきたい。</p>	4



基準 10 社会貢献・地域貢献

コ メ ン ト	評 定
<p>エンターテインメント業界への多大な貢献は言うまでもない。ペットボトルキャップの回収、資源リサイクルなどSDGsにも目を向けていることが感じられる。</p> <p>今まで行っている活動を継続して頂ければ問題ない</p> <p>各活動それぞれ、素晴らしい貢献と感じる。中でもアジア諸国への国際交流を教育機関が行うことは、未来に向けて大きな意味がある。社会情勢を鑑みた上で、再開できることを望む。</p> <p>コロナ明けのこのタイミングでこれまでの4年間で滞っていた特に地域貢献はアフターコロナに対応した相応の変化を加えつつ復活させていくかということについては高校も同じテーマを持って日々取り組んでいる。</p> <p>近隣清掃や資源リサイクルの推進、教育資源を活かした社会や地域への貢献等、課題としており実施に向けて努力されている。生徒が自主性を持てるように、ボランティア活動時間の評価・時間数取得が可能等とても良いと思う。</p>	<h1>4</h1>

## 所感

最近の学生はメンタルに問題を抱えている者が少なくない。学生時代はともかく、卒業後もその問題が解決することはまれで、就職してもすぐに辞めてしまう者も多いと聞く。SNSの定着により、自分が好むものだけに囲まれ、気にいらぬものはシャットアウトすることが可能になった現代、20歳前後という貴重な時期を過ごす教育機関の重要性を強く感じる。教職員の言葉や態度は、我々の思う以上に生徒の心に影響を与えるものであることを自覚した運営を続けて欲しい。

様々な職種があるエンタメ業界ではあるが、放送業界、制作やポスプロ業界に限って言うと、今後の雲行きは決して明るい物ではない。重点目標の1にも記したが、「AIテクノロジー」の台頭はとても脅威である。既にNHKではアナウンサーを使用せず、AIにやらせる事を行っており、今は皆が「驚き」や「物珍しさ」で見ているが、3年後にはそれがスタンダードになる可能性が高い。では、「人」はどのように仕事をするのか、大きな悩みである。学校にとってもそれは他人事ではなく、講師が「AI先生」で済んでしまうかもしれない。インボイス制度による電子化もそれに繋がる。今後の学生は「AIテクノロジー」を普通に使う人材になると思うが、自分で自分の首を絞める結果になるようで怖い。最後は「人」である事を教育のベースに置き、貴校には発展して頂きたいと思う。

人材募集をする企業も動きはじめた感があり、就職率だけで見れば上がっていくのは自然な流れだろう。今後しばらくは売り手市場が続くことは容易に想像できる。これからの問題は彼らの継続率、これは企業側に与えられた深刻な課題。彼らは就職がゴールとなっていないか、我々は映像の魅力を伝えられているのか、業界は環境の改善が必要か…。今回報告書を拝読し育成理念や教育活動に触れ、学校と企業は単に人材のパスではなく、連携して育成し続ける関係であるべきではないかと感じた。学生には社会の生きた声を届け、社会人には学びに奮起する顔を見せる。人材を送るだけでなく、戻れる場所としての価値があっても良いのかもしれない。

新聞・テレビ・ラジオが中心だった世代が親世代、そこにSNSという第4のメディアが主体となる世代がどんどん成人していくこれからの世の中、メディアリテラシーがますます問われていく時代になっていくことが想像される。貴学の教育は益々重要度を増していくと思われる。

コロナ禍から解放され、日常に戻れたようで以前とは変わってしまったことが多く感じられる。放送・エンタメ業界も素人の私から見ても変化がわかり、慌ただしくニーズに合わせ御校も大変な時期だと思う。運営に携わるみなさんの努力が感じられ、今後も継続していただきたい。今の1、2年生は、通常の高校生活を失った学年だ。保護者目線となるが、在校生たちの意欲を伸ばしながら楽しい学生生活をおくれたら良いと思う。ロコミも学校選びの際に目にするもので、募集力にも繋がる。

以上